

慶応義塾大学で自衛隊をPR



ガレッジリクルーター（大石2海尉）（中央）の説明に熱心に耳を傾ける慶大生

神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 赤塚3陸佐）は、3月9日（水）、慶應義塾大学日吉キャンパスにおいて「慶應義塾生のためのキャンパスフォーラム」に参加し、自衛隊の概要及び一般幹部候補生の募集に関する説明を行った。

本説明会には、ガレッジリクルーターとして活躍している防衛大学校研究科の大石2海尉が支援に駆けつけ、幹部候補生学校における学生生活やその後の幹部自衛官としてのキャリアアップについて、自らの体験談を交えながら生の声を伝えた。また、ブースを訪れた学生からの「大学で学んでいる電子機器等の研究を活かせる職種について知りたい」との質問に対し、「自衛隊が保有する装備品にも電子機器類は組み込まれており、様々な舞台で活躍できる可能性がある」との返答に、学生は目を輝かせていた。

横浜出張所は、「今後も優秀な幹部自衛官の獲得を目指し、同校へのPR活動を続けていきたい」としている。

防災スマイリングフェア（横浜市磯子区）に参加して

神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 平原1陸尉）は、3月13日（日）岡村公園（横浜市磯子区）において、岡村公園管理事務所及び岡村西部連合自治会主催の防災フェアに参加した。

当日は、磯子副区長及び磯子消防署予防課長を来賓として迎え、防災意欲の高揚を図るため、消防署員の指導による初期消火、救出資機材の取り扱い及び避難所における炊き出し訓練などが実施された。

自衛隊ブースにおいては、災害派遣実績をパネルで展示するとともに、ビデオ放映などで紹介した。また、非常用糧食の名前当てゲームなどで懇親を深め、来場者は有事における自衛隊の活動や被災地における隊員の生活について興味をもって質問していた。本イベントは初めての試みであったが、自衛隊が参加したことにより「大変心強く、身近に自衛隊さんがいることで安心感が増した」などの声が聞かれた。

上大岡募集案内所は、「今後も地元に着目し、地域の方々の協力関係の構築に努めていきたい」としている。



来賓として挨拶する上大岡募集案内所長



非常用糧食に興味を示す地域の方々



自衛隊ブースに並ぶ人々

神奈川地本潜水艦見学ツアー

「援護協力企業・予備自衛官関連団体との関係を強化」

神奈川地方協力本部（本部長 松田辰雄 1等海佐）は、平成28年3月13日（日）、海上自衛隊第2潜水艦群において潜水艦見学ツアーを実施した。

これは、援護協力企業と予備自衛官関連団体に対して自衛隊広報活動を行い、自衛隊に対する理解を得るとともに、防衛基盤の拡充を図ることを目的とし、神奈川地本主催で実施したものである。

当日は、援護協力企業4社9名、予備自衛官関連6団体8名の参加を得て、海上自衛隊第2潜水艦群を訪問し、部隊の現状について説明を受けるとともに潜水艦内見学を行った。参加者からは、厳しい任務や初めて目にする潜水艦内の状況について質問が飛び交い、これにより、自衛隊の実情等についての認識や、退職自衛官の就職の援助・予備自衛官の採用に対する理解を深めることができた。

また、海上自衛隊第2潜水艦群は米海軍横須賀基地内にあり、併せて米軍基地内を見学した。参加者は、米軍内のフードコートで昼食を摂るなど、海外の雰囲気を感じた。

神奈川地本は「援護協力企業や予備自衛官関連団体と自衛隊との連携の強化のため、今後も定期的にこのような部隊見学の機会を設けたい」としている。